

教職支援室便り（7月号）

令和3年 7月 9日（金）

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

教員採用選考試験（第一次試験）始まる

教員採用選考試験（第一次試験）が始まりました。すでに、北海道では、第一次試験が終わっています。今月10日（土）、11日（日）には、九州各県市で行われます。

昨年10月から「教職特別講座」を行ってきましたが、学生の皆さんは、誠実に、真摯に、演習に取り組んできました。がんばってきました。そのことを踏まえ、「やれるだけのことはやった。」という気持ちをもって、試験に臨んでほしいと思います。これまでの努力は、これからの人生を豊かなものにするに信じてください。

なお、九州各県市及び本学の学生の皆さんが受験する自治体の、校種等、採用予定数、応募者数、倍率について、下欄に掲載します。

自治体	校種等	採用予定数	応募者数	倍率
宮崎県	小学校	205	314	1.5
	小学校英語	5	6	1.2
	中学校英語	11	60	5.5
	高等学校英語	5	32	6.4
大分県	小学校	200	271	1.4
	中学校英語	20	38	1.9
長崎県	小学校	235	343	1.5
	中学校英語	11	33	3.0
福岡県	小学校	600	683	1.1
	中学校英語	40	84	2.1
福岡市	小学校	280	636	2.3
	中学校英語	24	93	3.9
北九州市	小学校	140	274	2.0
	中学校英語	5	35	7.0
鹿児島県	小学校	280	510	1.8
	中学校英語	20	64	3.2
佐賀県	小学校	190	280	1.5
	中学校英語	16	32	2.0

熊本県	小学校	180	263	1.5
	中学校英語	13	29	2.2
熊本市	小学校	145	284	2.0
	中学校・高等学校英語	10	49	4.9
沖縄県	小学校	200	936	4.7
	中学校教諭	100	993	9.9
静岡県	中学校教諭	130	707	5.4
神奈川県	中学校英語	38	152	4.0
	高等学校英語	80	278	3.5
埼玉県	中学校教諭	500	1,992	4.0
広島県	小学校	460	803	1.7

前期：教育実習終わる

前期の教育実習が終わりました。3週間の教育実習の中で、学生の皆さんは多くのことを学んだと思います。教師としての資質、学校現場の問題や課題、生徒理解の難しさやよさ、授業の難しさや成就感、教師志望の更なる情熱など、体験したことは、これからの人生において、大いに生かされることなのでしょう。今の感動を忘れることなく、教員採用選考試験の難関を突破してほしいと願います。

<教育実習の感想>

3週間は、毎日が刺激的で、学ぶことがたくさんありました。授業がうまくいかず落ち込むこともありましたが、先生方からいただいたアドバイスや、子どもたちのおかげでやり遂げることができました。最初は、緊張と不安ばかりでしたが、「明日も子どもたちに会えるからがんばろう。」と思うことができました。私は、常に子どもたちのことを思い、寄り添える教師になりたいです。これからも努力をしていきたいと思えます。

授業をする度に新たな課題が出てきて、挫折しそうになりましたが、先生方の助言を参考にし、ひとつひとつ解決できたように思います。多くの先生方の授業を参観したことで、様々な指導方法を知ることができ、非常に勉強になりました。そして、授業とは、先生だけがつくるものではなく、生徒と先生でつくり上げるものだと気付かされました。お互いが信頼し合える関係を、築いていくことが大切なのだと学びました。教職は本当に大変な仕事だと、身をもって感じた3週間でした。それと同時に、やりがいと楽しさも感じられる、素晴らしい職業であると、改めて思いました。

面接力・模擬授業力向上を目指す：その2

受験者の皆さんの重要な課題の一つに、面接力や模擬授業力の向上があげられます。そこで、先月号から、その課題解決のための資料を掲載しています。今回は、その2として、「面接に臨む基本姿勢」、「面接力向上の方策」について紹介します。

1 面接に臨む基本姿勢

面接官に与える印象が勝負を決める。

- 背筋を伸ばし、手や足の位置に配慮する。
- 相手の目を見て話す。
- うなずいて聞く。
- わからないときは「後で調べてみます。」など、正直に答える。
- 体験に基づいた応答は印象に残る。
- 落ち着いて、笑顔で応答する。
- 切れのよい返事をする。
- 簡潔に話す。
- 受付や待機場所での態度にも留意する。
- 服装、髪型などには十分注意する。

2 面接力向上の方策

(1) 教育に対する考え方、教職への熱意などを伝えるために、日頃から適度な声量を意識する。限られた面接時間であることから、声量がなくては熱意等を伝えることはできない。

(2) 多岐に渡った試問が予想されることから、あらゆる試問を用意し、演習を繰り返し行う。単に演習を繰り返すのではなく、試問内容を工夫して取り組む。

(3) 単に演習を繰り返すのではなく、試問に対するよりよい反応について、様々な角度から検討する。

(4) 試問に対しては、なぜそう考えるのか、教育指導にどのように生かしていくのかなど、イメージを豊かにしておく。実践事例を踏まえることも重要である。

(5) 圧迫面接を想定して、演習することも必要である。面接官の表情や口調に、戸惑うことがないように準備しておく。

道徳の教科化に思う！（シリーズ50）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。今回は、「教材・なおとからのしつもん・指導資料その1」として、本教材の見方・考え方についてまとめました。

1 教材名「なおとからのしつもん」

2 出典「教科用図書」
光村図書

3 対象学年
小学校3年生

4 ねらい 内容項目B－（12）「公正、公平、社会正義」

自分の好みや利害によって、他者に不合理に接する人間の弱さに気付かせながら、それを乗り越え、誰に対しても分け隔てなく接しようとする態度を育てる。

5 教材内容（概略）

本教材は、児童の日常で起こりがちな場面が描かれている。描かれている場面は、次の2つの場面である。

① 席替えの場面（仲良しの友達とそうでない友達が隣になったとき）

仲良しの「じゅんや」には「やった。」と喜ぶが、あまり話したことのない「ひろし」には「ええっ、やだなあ。」と思わず声を出してしまう。ひろしは、悲しそうな顔をしている。

② 休み時間の場面（優しい友達と意地悪をされた友達を遊びの仲間に入れるとき）

いつも優しくしてくれる「ほなみ」には「いいよ。」と言うが、以前遊びに入れてくれなかった「ゆかこ」には「だめだよ。」と断る。

これらの場面を踏まえ、主人公の「ぼく」は、「なおと」に、人によって態度を変えることはいけないと注意する。これに対して、「なおと」は、なぜ人によって態度を変えたらいけないのかと聞き返す。主人公の「ぼく」は、返答に困る。

6 発問構成例（展開前段） ○・・・期待する児童の反応 ◇・・・指導上の留意点

Q1. 「なおと」は、「人によってたいどをかえるなんて、だめだよ。」と言われたとき、どんなことを考えたでしょう。

- なんてだめなの。
- 何も悪いことはしていないよ。
- どうしてそんなことを言われるのかわからない。

◇ 「なおと」が自分の言動の問題に気付いていないことをおさえ、「なおと」といっしよに、「なおと」の質問の答えを考えるための課題設定へと導く。

課題例「どうして人によってたいどをかえたらだめなのか、みんなでいろいろ考えて、『なおと』くんの心につたえてあげましょう。」

Q2. 「せきがえのときのこと」と「休み時間のときのこと」の場面で、相手はどんな気持ちだったでしょう。

- 「じゅんや」と「ほなみ」は、うれしい気持ちがしたと思う。
- 「ひろし」と「ゆかこ」は、いやな気持ちがしたと思う。

◇ 4人の相手の気持ちを出させるが、不快な気持ちをもった「ひろし」と「ゆかこ」が問題であることに注目させる。

補～「ひろし」と「ゆかこ」のどちらの気持ちが、特に気になりますか。

○ 「ゆかこ」は、遊びに入れなかったことがあるから、「なおと」も入れなかったと思う。

○ 「ひろし」は、話したことがなかったから、「なおと」から「ええっ、やだな。」と言われたと思う。

◇ 「ひろし」と「ゆかこ」の気持ちを取り上げ、児童に特に考えてみたい相手（問題視する場面）とその理由を自由に出させる。（同じ意見でも発表させるようにする。）そして、児童の考えをもとに、「ひろし」の気持ちに焦点をあて話し合うことを確認する。

Q3. 「なおと」といっしょに、「ひろし」の気持ちをしっかり考えましょう。

話したことがないということで、「なおと」に「ええっ、やだなあ。」と言われた「ひろし」は、どんな気持ちでいっぱいになったでしょう。

○ 腹が立つより、悲しい気持ちになったと思う。

○ 自分がいやがられていると感じた。

◇ 「ひろし」の顔の表情（教材の絵）を拡大して提示し、いやがられていると感じていることをおさえる。

補～「なおと」にしてみればいやなのだから、しょうがないと思いませんか。そんなに気になる言葉ですか。つい言ってしまうこともあるのではないですか。

○ やはりいやな言葉だ。自分が「ひろし」の立場であっても、いやな気持ちになる。

○ 自分だったら、悲しい気持ちになるかもしれない。

○ つい言ってしまう言葉かもしれない。自分も同じようなことがあった。

◇ 「なおと」を弁護する補助発問を投げかけることで、自分との関わりの中で「なおと」の言葉を考えさせ、「ひろし」の心の痛みに気付かせる。

◇ 更には、児童に「人には、相手によって態度を変えるところがあるのでしょうか。」と投げかけ、人間の弱さにも気付かせたい。

補～そんなにいやなこと、悲しいことなのですね。どれくらいいやだったのでしょうか。言葉で表現できますか。

○ とてもいやだ。

○ 少しいやだ。

○ 特に感じない。

◇ いやなこと、悲しいことの程度は、児童によって異なると考えられるが、その多様性についても話し合う中で、悲しく辛い気持ちになる人もいることに気付かせる。

◇ 「ひろし」の気持ちが、児童の心の中に膨らんでいくようにする。教師は、児童の発言を共感的に受け止め、認めるようにする。

補～もしみなさんが、それを見ていたらどんな気持ちになりますか。

○ やはりいやな気持ちになる。

○ 少しいやな気持ちになる。

○ 何も感じないかもしれない。

◇ 人によって感じ方が異なることに気付かせる中で、いじめのない楽しい学級であるための、大切な心について話し合う。

Q4. 「なおと」からの質問に何と答えますか。

○ 相手の人が、とてもいやな気持ちになる。まわりの人の中にも、いやな気持ちになる人がいる。みんなが楽しく過ごすためには、だれに対しても思いやりをもって、言葉をかけてあげることが大切だ。「なおと」に、ぜひわかってほしい。

◇ 誰に対しても分け隔てなく接することの大切さを、心から伝えるように支援し、ねらいとする価値を把握させる。

◇ ワークシートなどを活用して、書く活動を取り入れても効果的である。